

さいたま市緑の基本計画に掲げる リーディングプロジェクトの今後の展開について



令和6年1月12日（金）

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP 1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP 2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP 3

持続的な自然との共生プロジェクト

Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

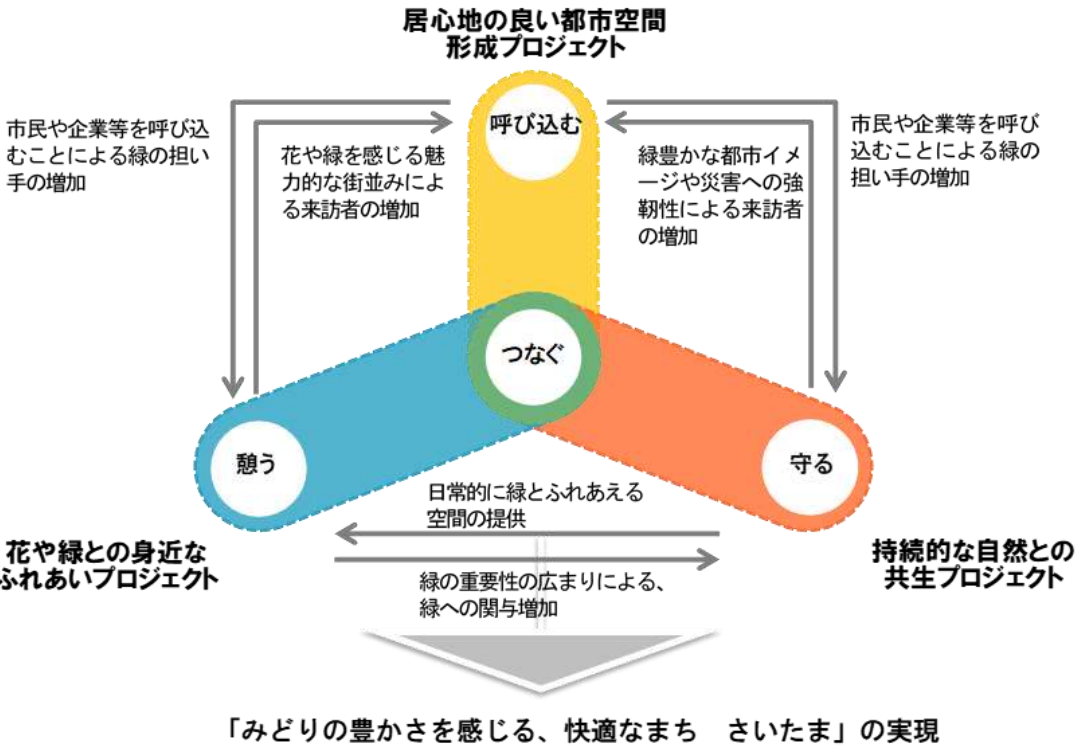
4

LP3

持続的な自然との共生プロジェクト

リーディングプロジェクトとは

●緑の力を効果的に発揮、先導的な役割を担うプロジェクトを設定



リーディングプロジェクト1 **呼び込む×つなぐ**
居心地の良い都市空間形成プロジェクト

緑の多様な機能を生かして、都市の魅力と価値を高める



リーディングプロジェクト2 **憩う×つなぐ**
花や緑との身近なふれあいプロジェクト

花や緑との身近なふれあいを通じ、緑あるライフスタイルを実現する



リーディングプロジェクト3 **守る×つなぐ**
持続的な自然との共生プロジェクト

緑と市民の関わりを強め、自然と共生する暮らしを将来に継承する



Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP 1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP 2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP 3

持続的な自然との共生プロジェクト

大宮ストリートプランツの展開

大宮ストリートプランツプロジェクトは、可動式植栽の配置により、緑豊かなストリートを形成するとともに、ベンチ等と組み合わせた居心地の良いパブリックスペースを創出し、街路空間における回遊性及び滞在性の向上を目指す取組。

VISION

1. [大宮の歴史の発掘]

大宮周辺の植木・苗木生産地を基盤とした、緑のある街路沿道の風景を復活させ、大宮の歴史を感じさせる風景を生み出します。

2. [緑化による滞在性向上]

街路沿道の緑化によって、居心地が良く滞在性の高い街路空間を創出し、緑あるライフスタイルを生み出します。

3. [維持管理の継続]

公・民が連携した新しい仕組みで設置・維持管理を継続し、都市の緑を保ちます。

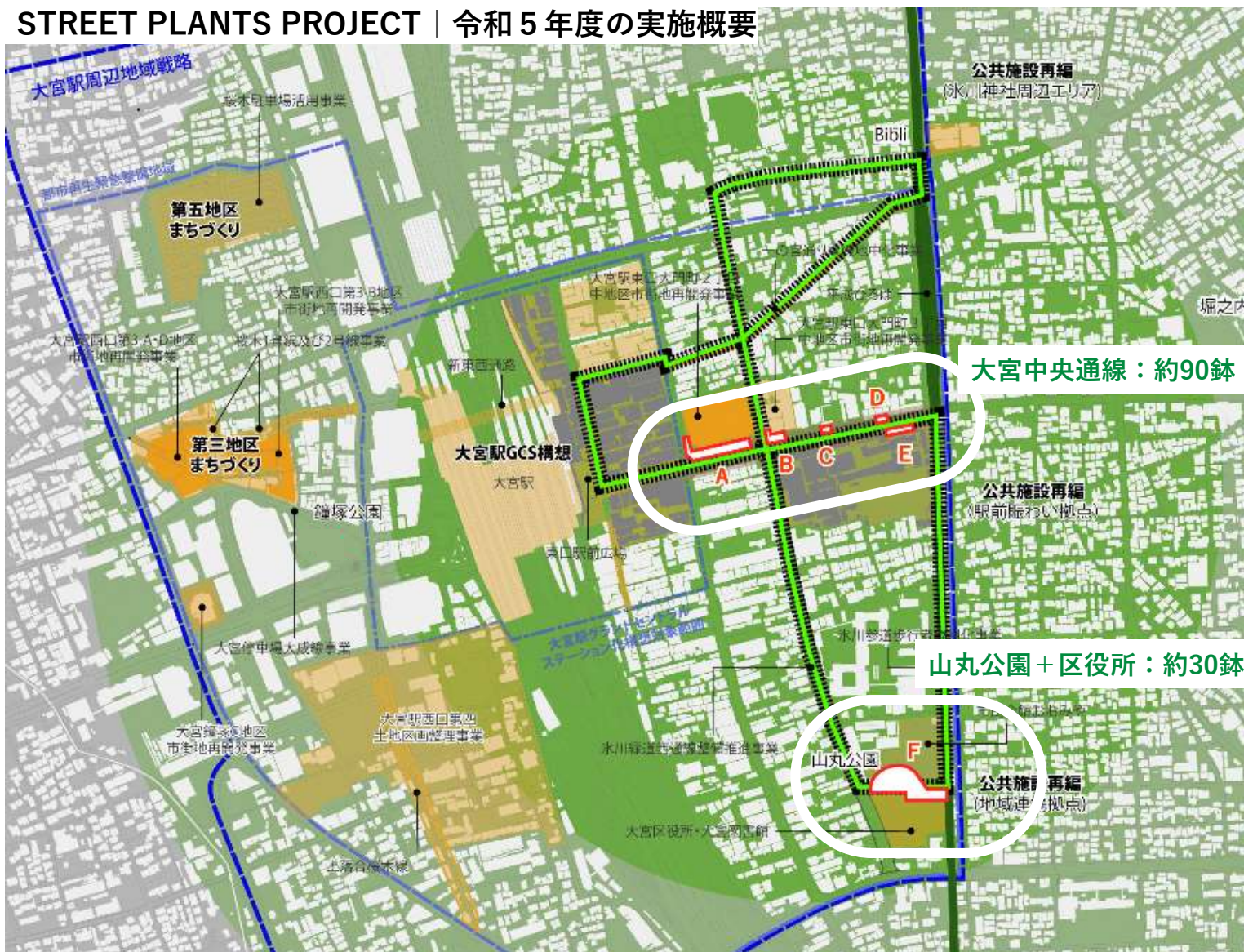


大宮ストリートプランツの展開

LP1

担当：みどり推進課

STREET PLANTS PROJECT | 令和5年度の実施概要



- 実施期間：
2023年8月21日～11月30日
(約3カ月半)

※ただし、国際芸術祭が10月7日～12月10日のため、山丸公園での設置分については、2023年8月21日～9月30日まで設置し、10月以降は大宮門街前へ移設。

- 設置鉢数：

記号	場所	鉢数
A	大宮門街前	30
B	埼玉りそな前	10
C	メガネのオガワ前	5
D	オザワビル前	15
E	中央通り3丁目南区間	30
F	山丸公園+大宮区役所	30
計		120

大宮ストリートプランツの展開

LP1

担当：みどり推進課



山丸公園

[グリーン+ウォーカーブルの取組]

- ストリートプランツ+キッチンカー出店

※公園緑地協会との連携により実施

大宮門街前歩道部

[グリーン+ウォーカーブルの取組]

- ストリートプランツ+キッチンカー出店
(STREET LUNCH)
- 大宮植木市(PLANTS MARKET)の開催

※プロジェクトパートナーの植木生産者と企画



第2回グリーンインフラ大賞 国土交通大臣賞受賞

大宮ストリートプランツの展開

LP1

担当：みどり推進課

企業協賛の導入 [協賛ステッカーの掲出]

門街辻広場前

大栄不動産株式会社様による協賛
ステッカー掲出：8/21～11/30



旧中山道交差点

日本環境クリアー株式会社様による協賛
ステッカー掲出：10/23～11/30

グリーンインフラの可視化に向けた動き

“グリーンマッププロジェクト”の始動

目的及び展望

- グリーンインフラの考えが徐々に浸透し、市民からも緑への関心は高くなっている一方、緑の効果や評価が見えづらいことから、**緑の価値を定量化・可視化**し、わかりやすく示すことによって、**緑の創出への理解や民間企業からの投資意欲の向上**を図ることを目的としている。
- 将来的には、**3D都市モデルとの連携**や、**カーボンクレジット・オフセットへの活用**等も検討していく。

将来展望イメージ



国土交通省の動向

民間投資による良質な都市緑地の確保に向けた
評価のあり方検討会

- 市場の原理によって良質な緑地の保全・整備が進むよう、**評価・認証制度の構築**を進めている。
- 評価の視点として、**気候変動対策、生物多様性の確保、Well-beingの向上**の3つが掲げられた。
- 現在は、具体的な評価項目や評価体制等の検討が行われている。



中間とりまとめ（概要版）より

グリーンインフラ推進戦略 2023

- グリーンインフラの概念が定着し、**本格的な実装フェーズへ移行**するとともに、**ネイチャーポジティブ**や**カーボンニュートラル・GX**等の世界的潮流等を踏まえ、新たな「グリーンインフラ推進戦略2023」を策定。
- 「グリーンインフラのビルトイン」に向けた7つの視点の1つに“**評価の視点**”が記載。
- グリーンインフラのビルトインに向けては、**グリーンインフラの効果の把握・見える化**やその**評価が重要**であるとしている。
- このほか、**ESG投資**や**カーボン・クレジット**、**企業による気候関連・自然関連の財務情報の開示**に向けた動き（TNFD・TCFD）などをキーワードに記載。

グリーンインフラの可視化に向けた動き

LP1
担当：みどり推進課

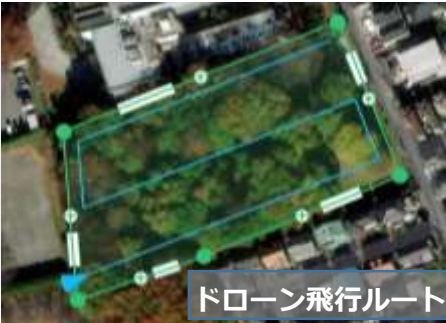
大和田緑地公園特別緑地保全地区

面積：約1.33ha
概要：希少種の保全活動あり

令和5年11月27日
ドローン空撮



試行



ドローン飛行ルート

樹高及び樹径等の簡易調査



セントラルパーク

面積：約3.9ha(先行)
約12.2ha(次期)
概要：防災・医療拠点の補完
野生生物の保護
緑の拠点



樹木頂点の検出

拡大

大宮駅

山丸公園

面積：約0.28ha
概要：植栽あり

鐘塚公園

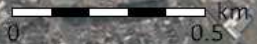
面積：約0.3ha
概要：植栽あり



AIによる樹種の検出

<今後の展開>

- R5年度 | 事例、可視化項目
- R6～ | モデルエリア試行
- R8～ | 他エリア実装



Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

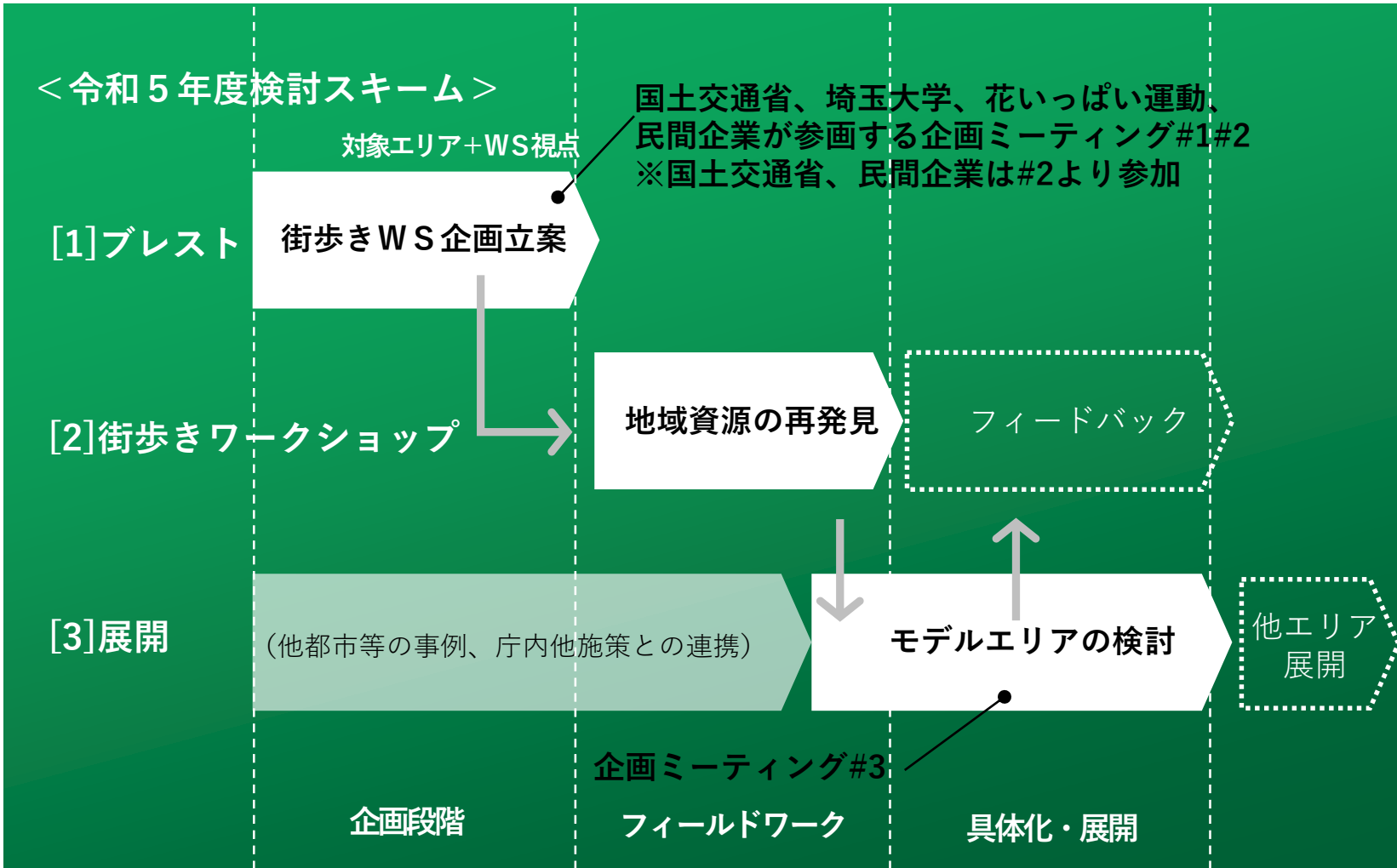
4

LP3

持続的な自然との共生プロジェクト

ガーデンツーリズムの展開

●令和5年度は、キックオフ年度となることから、市民のほか関係者と意見交換するスキームにて検討に着手。



さいたま市の魅力を発掘

ガーデンツーリズムを考えよう

「ガーデンツーリズム」ってなんだろう？

さいたま市は、市民や来訪者のみなさんが快適に・楽しく過ごせる街なかを目指し、花や緑をつなぐ「ガーデンツーリズム」を検討中です。これは、街なかで過ごすみなさんの、こんな花や緑を「見たい！」「見せたい！」アイデアが大切です。さいたま市にはどんな花や緑があるのでしょうか？みんなで「さいたま市らしいガーデンツーリズム」を一緒につくっていきませんか？

01 さいたま市らしいガーデンツーリズムとは？

11月25日(土)

10:00~12:30

場所：新都心ビジネス交流プラザ

アース製菓によるガーデンニングのコツをお話しする予定です！

02 見て・歩いて新たな地域資源を発掘しよう！

12月9日(土)

13:30~17:00

場所：大宮区役所

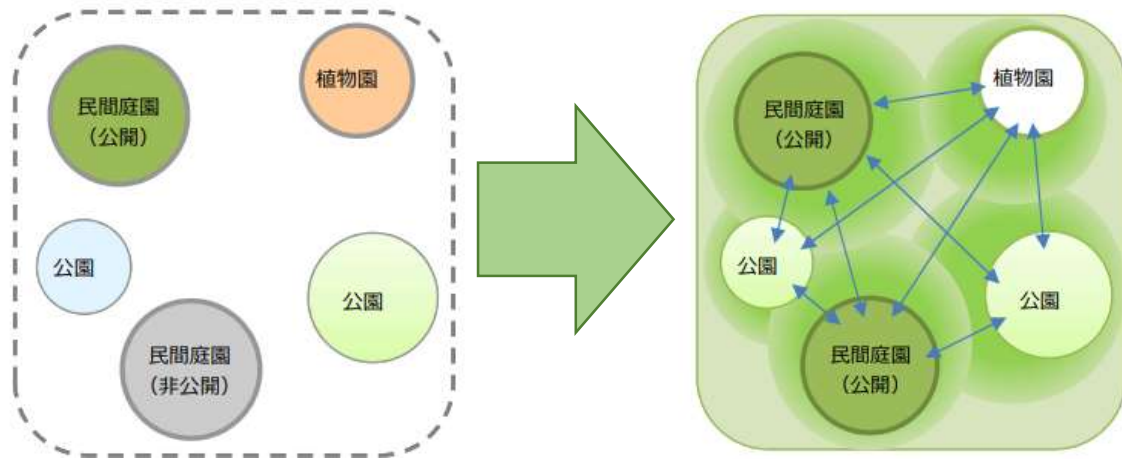
大宮駅周辺を歩き、アイデアや地域の魅力をまとめます！

ガーデンツーリズムの展開

● ガーデンツーリズムとは

歴史的な価値のある庭園や植物園、公園などをめぐる観光形態を指し、国土交通省では平成31年4月に登録制度を創設しています。

なお、現在全国では15の計画が登録されています。



● 令和5年度の実施内容について

- ・ワークショップの開催 (計2回)
- ・企画ミーティング
(ワークショップの内容を企画するもの)

● ワークショップの目的

本市らしいガーデンツーリズムとは何か、本市にはどんな花や緑に関する地域資源があるか等について、**広く意見を集めるため**、市民や大学生、民間企業等が参加したワークショップを開催しました。

● ワークショップの参加者構成

埼玉大学大学院 深堀准教授
大学生及び大学院生10名 (埼玉大学)
さいたま市花いっぱい運動推進会5名
アース製薬株式会社3名
公益財団法人さいたま市公園緑地協会1名
一般市民9名
さいたま市職員8名
<計37名>



ガーデンツーリズムの展開

● ワークショップの取組内容及び主な意見

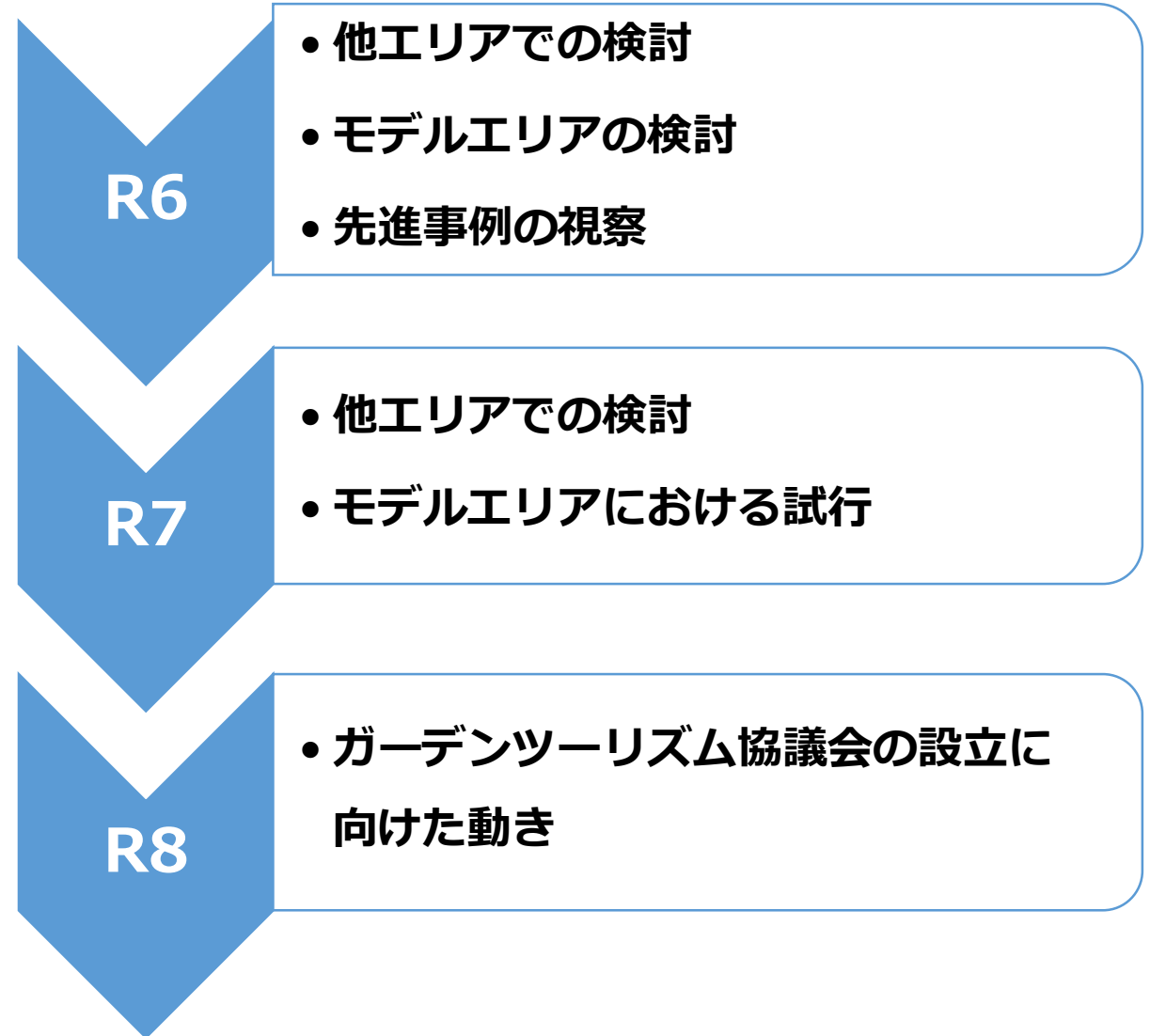
新たな地域資源の発掘に向け、4つの班に分かれ大宮駅東口周辺を散策しました。

日本一長い参道といわれる氷川参道では、緑が連続している中にカフェ等のくつろげる空間が多くあった他、盆栽町方面では、歴史を感じる長屋門や見沼代用水に写る木々が美しかった等の意見がありました。



街歩き中の様子

● 今後の展開



Agenda

1

概念

リーディングプロジェクトの位置づけ

2

LP 1

居心地の良い都市空間形成プロジェクト

3

LP 2

花や緑との身近なふれあいプロジェクト

4

LP 3

持続的な自然との共生プロジェクト

緑地評価基準の見直しについて

樹林地の現状



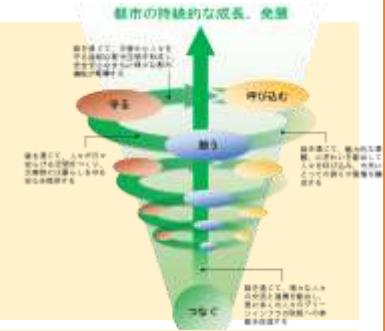
本市の緑の構造

- ・見沼田圃や荒川、元荒川近くの台地にまとまった樹林地が広がっているほか、市街地にも点在している。
- ・宅地開発等で徐々に減少している。

新たな潮流

緑の基本計画の改定

- ・令和5年11月に改定。
- ・緑の力(グリーンインフラとしての機能)を発揮させることを新たに位置づけた。



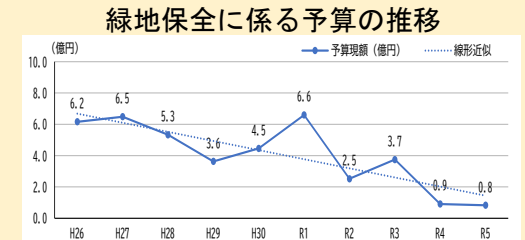
ナラ枯れ被害の拡大

- ・令和2年度に本市で初めて被害が確認される。
- ・市が管理する緑地においても被害が拡大している。



緑地保全に係る予算確保

- ・市民生活に直結する予算が優先され、近年では緑地保全に係る予算確保が困難。



⇒これまでの補助金交付、公有地化等の施策に加え、公民連携による取組を進めていく

⇒既存の評価基準を新たな潮流に沿った基準に見直し、今後の取組に活用していく

緑地評価基準の見直しについて

見直しの方向性

- 緑の基本計画改定版が目指す方向性を踏まえると、緑の力(グリーンインフラとしての機能)の発揮による効果が大きい緑地を、より優先的に保全することが重要。
- また、公民連携による緑地の維持管理や活用の推進にあたり、民間による維持管理や活用が期待できる緑地を、より優先的に保全することが重要。

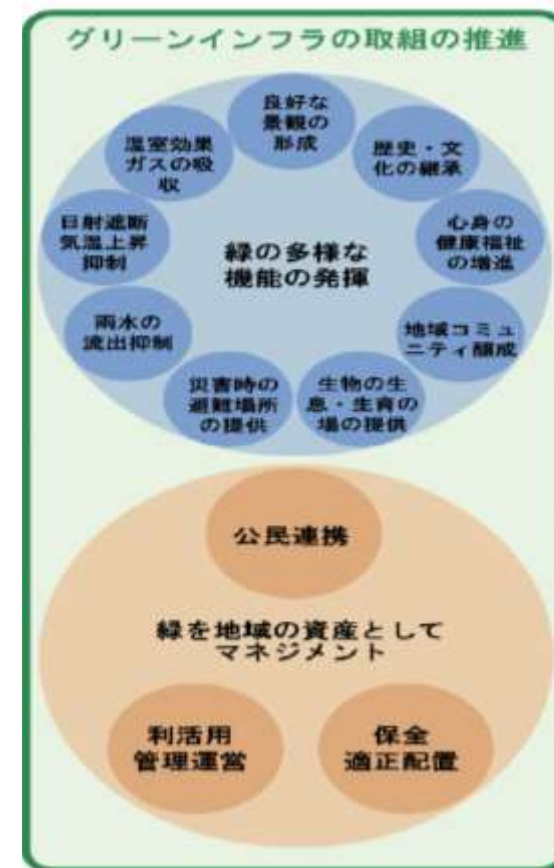
< 現行の評価基準 >

評価項目	評価指標	評価基準
保全の緊急性	区域区分等	5点：市街化区域、見沼田圃緩衝エリア内 1点：市街化調整区域
	宅地化状況	3点：2面以上宅地に隣接 2点：1面が宅地に隣接 1点：宅地に隣接なし
	接道状況	3点：幅員4m以上の道路に接道あり 1点：幅員4m以上の道路に接道なし
	路線価	3点：10万円以上 2点：5万円以上10万円未満 1点：5万円未満
	樹林の形態	3点：単独樹林 2点：屋敷林 1点：社寺林等 1点：その他（植木圃場、草地など）
緑地の質の高さ	面積規模	5点：3,000㎡以上 3点：1,000㎡以上3,000㎡未満 1点：1,000㎡未満
	自然条件	3点：樹林地、河川・湖沼 2点：農地
	管理状態	2点：管理が行われている 1点：長期間放置されている 0点：産業廃棄物の不法投棄がある
	市民活動	4点：市民活動が行われている 1点：市民活動が行われていない
	隣接地条件	2点：公園、学校、その他の公共施設と隣接する
	樹林地の連続性	3点：他の樹林地を含めた斜面林の延長200m以上 1点：他の樹林地を含めた斜面林の延長200m未満100m以上

グリーンインフラの
機能発揮・民間活用
に着目した基準へ



(緑の基本計画改定版P. 44より)



社会的課題の解決に貢献

緑地評価基準の見直しについて

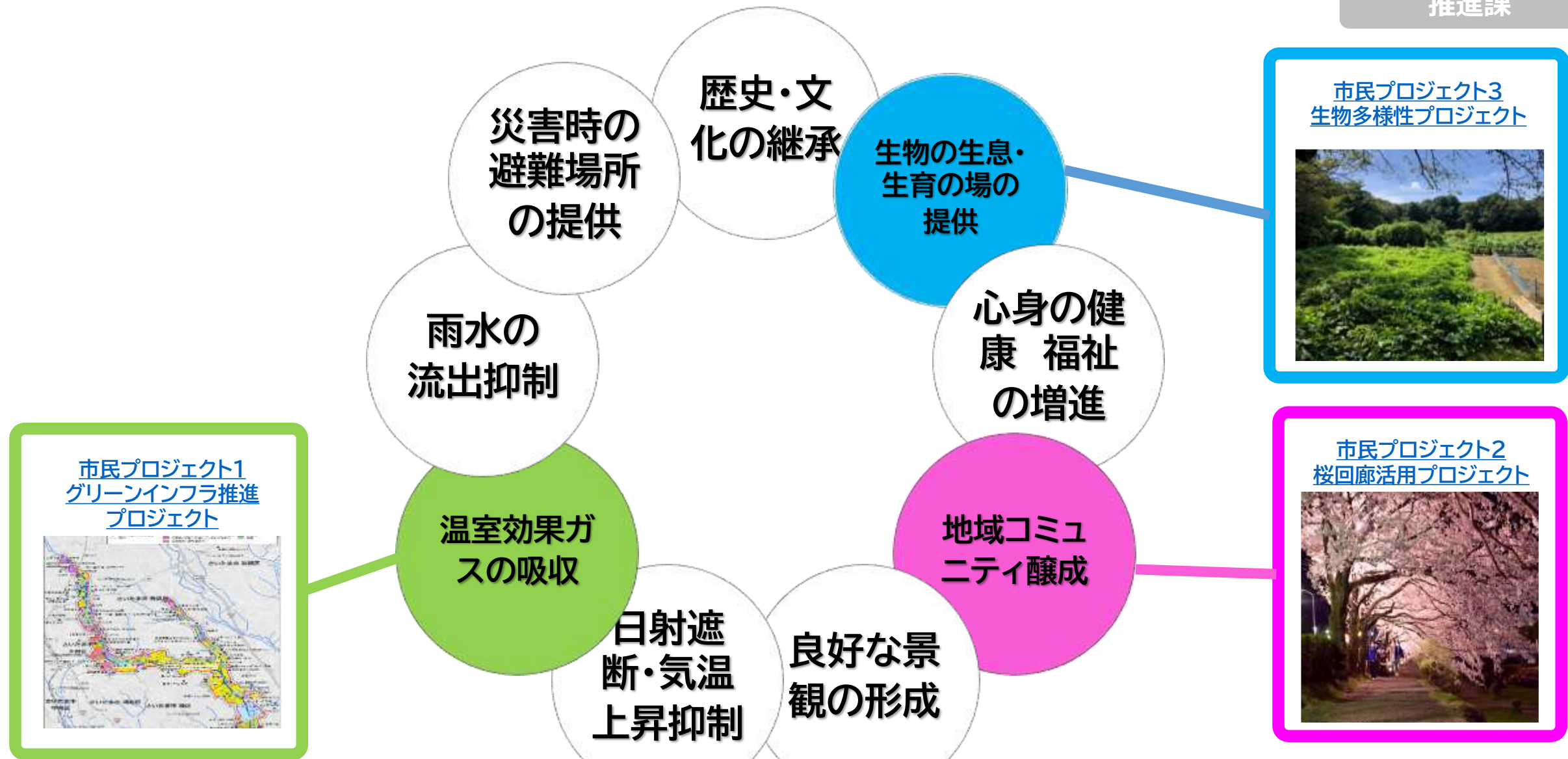
LP3
担当：みどり推進課

＜新たな評価基準（たたき台）※検討中＞

評価項目	評価方法	設 理 由	関連する 現評価指標	
緑 の 力 (グ リ ン イ ン フ ラ と し て の 機 能) の 発 揮	良好な景観の形成機能	景観計画(示す重点的)「取組む」「景観軸」、「景観拠点」を構成する緑地を評価する	本市らしい景観形成(寄与するため)	(新規)
	歴史・文化の継承機能	「史跡」、「天然記念物」、「特植物群落」から徒歩圏内の緑地を評価する	歴史・文化資源の価値が高まるため 歴史・文化資源を緑地を巡り歩くことができるため	(新規)
	心身の健康福祉の増進機能	市民が自由(立ち)ることができる緑地を評価する	散歩等を行うことで身体の健康(寄与するため)	(新規)
	地域コミュニティ醸成機能	市民活動が行われている緑地を評価する	地域(おける)コミュニケーションの場となるため	市民活動
	生物の生息・生育の場の提供機能	エコロジカルネットワークの形成・自然環境の基盤となる豊かな植生の形成・水環境との近接(性)する緑地を評価する	動植物の生息・生育の場の提供(寄与するため)	樹林の形態 自然条件 樹林地の連続性
	災害時の避難場所の提供機能	延焼リスクが高い地(区)の緑地を評価する	災害時の延焼遮断(効果がある)ため	(新規)
	雨水の流出抑制機能	樹林面積の大きい緑地を評価する	面積が大きいほど雨水浸透量が増加するため	面積規模
	日射遮断・気温上昇抑制機能	平均(気温)が高い地(区)に(置)する緑地を評価する	市内の(比較的)気温の高い地域(おける)気温上昇の抑制に寄与するため	(新規)
	温室効果ガスの吸収機能	樹林面積の大きい緑地を評価する	面積が大きいほど温室効果ガスの吸収量が増加するため	面積規模
民間 活用	管理状況	適切な維持管理が行われている緑地を評価する	倒木などのリスクを下げるため	管理条件
	アクセス性	公園、学校、公共施設等や駅、バス停から徒歩圏の緑地を評価する	市民の利活用の可能(性)が高まるため	隣接地条件
位置 づけ	緑の基本計画での位置づけ	「緑のシンボル・骨格」、「緑の拠点と軸」を構成する緑地を評価する	基本計画上の重要(な)緑地であるため	区画区分等
	区域区分	市街化(区域)内の緑地を評価する	市街地(に残)された貴重な緑地であるため	区画区分等

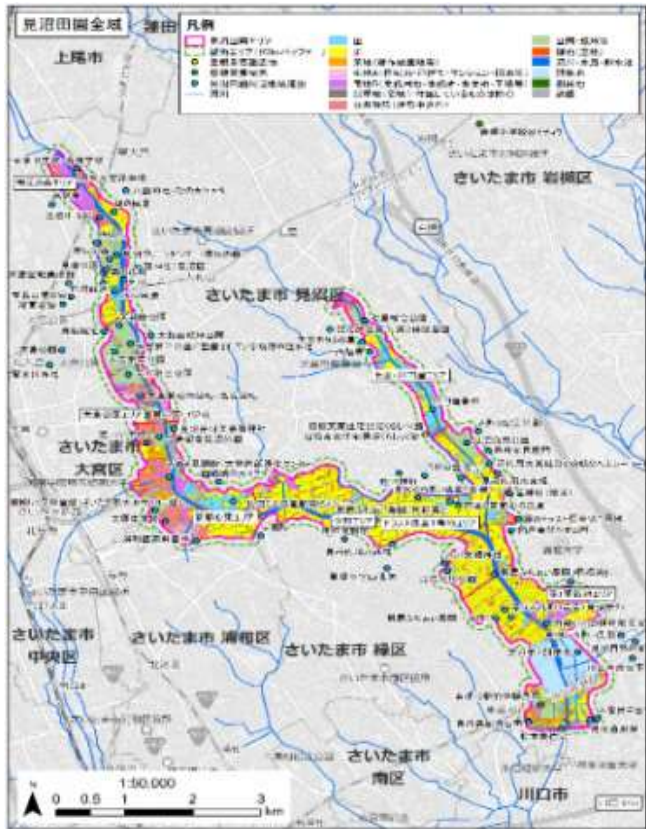
カーボンニュートラルに貢献する見沼田圃等の保全・活用

LP3
担当：見沼田圃政策推進課

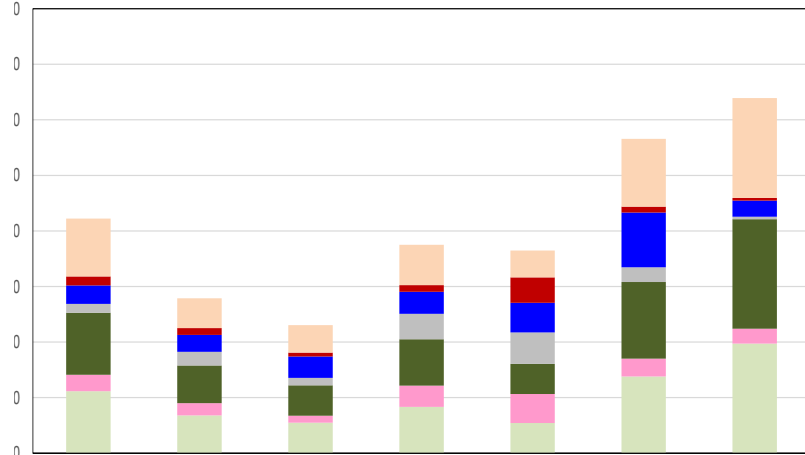


【見沼田圃グリーンインフラ推進プロジェクト】

① グリーンインフラポテンシャル調査



グリーンインフラ機能の総面積 (H25年土地利用現況図)



見沼田圃が有するグリーンインフラ機能をエリアごとに調査し、優先的に取り組むべき機能の抽出と機能の定量化手法について検討



農地評価の可視化
・炭素固定吸収量
(CO₂吸収量測定、農法等実証実験、見える化サイトを活用)

【見沼田圃グリーンインフラ推進プロジェクト】

②グリーンカーボン推進事業（公有地を活用した農地における炭素貯留に関する実証実験）

【農地における炭素貯留の課題】

・収穫した後に農作物残渣を刈り取る場合は、吸収量は評価されない

・**炭素管理型農業**を行うことが有効。

（有機肥料や草生農業などの土壌中の炭素量を増加させる栽培方法）

・農作物の吸収能力を生かした**炭素固定手法**

【実証実験】

埼玉大学・民間企業との連携

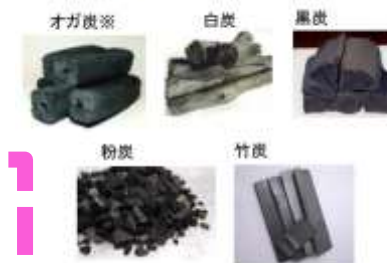
・CO2吸収能力が高いと言われるスーパーフード「モリンガ」を栽培し、CO2吸収量を測定

・モリンガの品種改良（越冬種の開発）

・モリンガを原料とした**バイオ炭**の製造、品質の分析や、地域で循環しうるバイオマス調達・供給・生産の研究



■インベントリ報告書の算定対象とされたバイオ炭



※木炭は、薪・樹皮を原料とした木炭を炭化したもの。

さいたま市と埼玉大学とのイノベーションに関する覚書

【見沼田圃生物多様性プロジェクト】

東京電力グループとの連携



斜面林や見沼代用水、農地などの二次的自然環境における生物多様性の維持・回復を推進するための実証実験

(令和5年度環境省生物多様性保全推進支援事業)

◆令和5年度の取り組み内容

実験前のモデル地区の動植物相のモニタリング

【昆虫】 トンボ・バッタ・チョウ等
8目38科83種を確認。

【植物】 64科167種を確認



オシオカラトンボ (8月 見沼代用水)



シオカラトンボ類幼虫 (10月 五斗森地区)

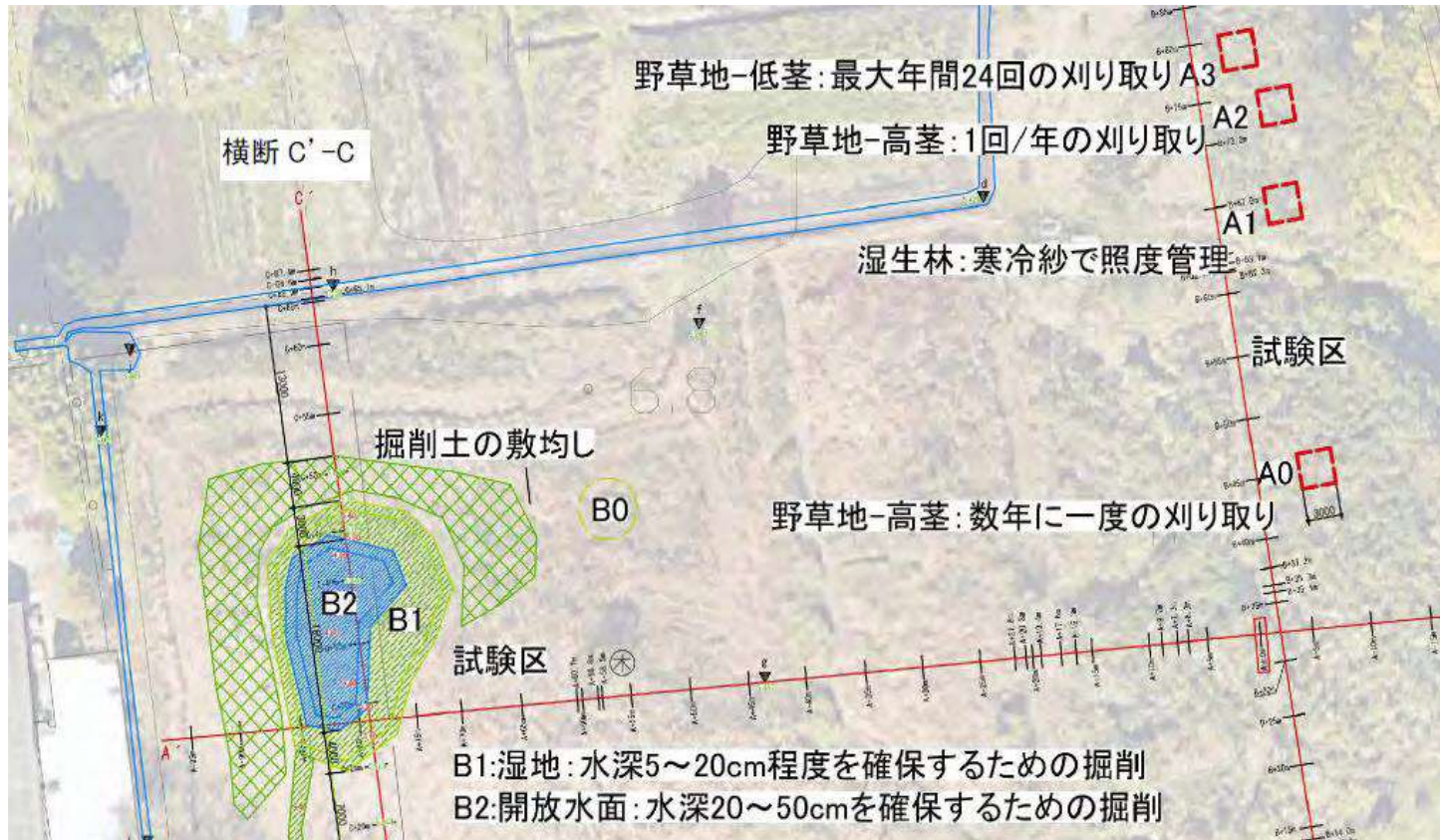


ハンゲショウ (県 RDB : 絶滅危惧Ⅱ類)

【見沼田圃生物多様性プロジェクト】

◆これからの取り組み

現況の植生をもとに、令和6年度の実証試験場を整備



【観光・教育プログラム】

ネイチャーポジティブ、30by30
OECM認定など国際的な取り組みも
念頭に、見沼田圃・モデル地区の将
来像を検討し、体験や学びの場とす
る。



OECM認証事例
飯能市 天覧山東谷津ほとけどじょうの里